Ⅳ　特別活動　２年次の成果と課題

1　成果

(1)　「お試し」の活動やプレゼンテーションを効果的に位置付けた指導計画

話し合った内容を実体験を通して確かめる「お試し」の活動やプレゼンテーションが，話し合う必要感を高め，主体的で目的意識をもった話合い活動の展開に効果があることが分かったことが成果である。

「お試し」の活動を行うことにより，それまでの話合いでは気付かなかった不十分な点を実感し，活動をよりよくするための解決すべき問題が明確となった。全員が共通の体験をしたことにより，問題の共有化が図られ，話し合う必要感のある話合いの柱を設定することにつながった。話合い活動と実際の活動とを往還することで，主体的で目的意識をもった話合いの展開につながっていった。

また，話合いの余地を残したアイデアのプレゼンテーションが有効であった。提案者が考えた段階で迷ったり悩んだりして決められなかったことを，敢えて残したまま原案として示した。そのことにより，話合い活動を通して原案をよりよい考えに昇華させていこうとする話合いの展開につながった。原案に敢えて曖昧な点を残したことにより，話合いの視点が明確になり，話合いが活性化されたと考える。

これらのことから，主体的で目的意識をもった話合い活動の展開をするために，お試しの活動やプレゼンテーションを効果的に位置付けた指導計画は，有効であったと考える。

(2)　自他の変容を見つめる活動の位置付けと互いのよさを共有するための工夫

自分たちの話合いの進め方について現状を把握し，よりよい合意形成の図り方への理解を深める効果的な手立てが分かったことが成果である。

単位時間の終末において，自分の話し合う力の現状や友達の話合いにおけるよさを見つめる場を設けた。自分自身をふり返ることができるよう，自分が高めたい話合いの力を学級会カードに記述して，話合いに臨むこととした。また，相互評価を取り入れ，友達の参考にしたい姿を見いだすことができるようにした。これらのことが，自分の話し合う力の現状を自覚したり，友達の話し合う姿をもとに次の自分の話合いのめあてを具体化したりする姿につながった。また，話合いの進め方や合意形成の図り方のモデルとなるように，話合い活動後に相互評価を行った。自他の変容を見つめる活動を積み重ねていくことを通して，よりよい話合いの進め方や合意形成の図り方についての資質・能力を高め,「話合いのめあてや提案理由から考えると･･･」「二つの考えのよいところを合わせて考えると･･･」など，話合い活動の中で意識しながら活用する姿も見られた。

これらのことにより，話合いの進め方についての省察を通して，現状を把握し，よりよい合意形成の図り方について個々の理解を深めることができたため，自他の変容を見つめる活動を位置付けたことや互いのよさを共有するための掲示は有効であったと考える。

(3)　工夫考案型の話合いにするための，視点を明確にした話合い活動の工夫

学級目標や，自分たちに必要な力と関連付けて話合い活動を展開した。

例えば，３年生の実践では，活動の目的である「学級がもっとなかよくなるため」ということが共有化され，話合いの視点が明確になり，実践につながる具体的な「工夫考案型」の話合いの実現につながった。また，抽象的な「なかよく」という様子を，具体の姿としてイメージしやすくするために，自分の体験を出し合い，共有する活動を重視した。具体の姿を共有しておくことで，話合い活動の中で視点に沿った具体案が多く出された。

これらのことから，議題を選定したときの理由を拠り所として話し合う意識付けを図ることや,抽象的なイメージを具体的な姿として共有する場を設定したことは,「工夫考案型」の話合いにおける視点の明確化につながり，有効であったと考える。

2　課題　**主体的に話合い活動を進め，よりよい合意形成を図るための司会グループの編成の工夫と指導の在り方**

子どもたち主体の話合い活動とするために，教師の介入の機会を少なくし，進行を子どもたちに委ねていく必要がある。そのために，これまで本校特活部では自分たちの話合いを客観的に見つめる役割を司会グループの中に位置付けてきた。しかし，実際の話合い活動の中で，その役割の機能を十分に果たすことができているとは言い難い。司会グループがそれぞれの役割を果たしながら進行し，自分たちで合意形成を図っていくために，どのような役割や分担が効果的であるのか，引き続き検討していきたい。また，フロアの子どもも考えを発言するだけでなく，教師が介入するように「今は〇〇に関してじっくり話し合うべきだ。」「話合いの視点から逸れているので，立ち返って話し合っていこう。」など司会グループに対して進行に関する助言を行う力を育てる必要を感じる。輪番で司会グループを経験していくからこそ，それまでの経験に基づいた司会グループへの助言を行えるであろう。司会グループの編成の工夫と併せて，話合い活動を，学級全体で進行する土壌作りも欠かせない。子どもたちが主体的に話合い活動を進め，よりよい合意形成を図るための指導の在り方を探っていきたい。